

遊びが本になる！風景をあつめるワークショップ

講師：soremomatayoshi、又吉啓、ひのちゃん
企画：BARRAK

大道にアトリエを構えて活動している若手アーティストグループ「BARRAK」によるワークショップ。これまで県内最大規模のART BOOK フェアを開催し、手製のブックレット（ZINE/ジン）を製作する活動を行ってきた経験をいかして、子ども向け・大人向けと分けて実施した。

目を閉じて葉っぱを触り、色や形を思い浮かべて絵を描いたり。マンホールなどの凹凸をフロッタージュという技法で写し取ったり。さまざまなワークを通して、参加者に普段とは異なる物の見方、風景の捉え方を発見してもらうプログラムであった。時間内に参加者が制作した絵や写真は、後日一冊の本（ZINE）となって参加者のもとへ届く。

参加した子どもたちはワークショップ終了後も熱心にアンケートに思いの文を連ね、「外あそびが苦手だったけれど、今回で大好きになりました」という嬉しいコメントも。高校生以上を対象とした回では、スマートフォンに触ってはいけないというルールで、15 分ほどお気に入りの場所で作品を作ること、日々の喧騒の中で忘れてしまっていた時間の流れを感じることもできた。



小学生対象
11/8・29 10:30～14:00
高校生以上対象
11/21・22 10:30～14:00



Artist's voice

外の景色にはおもしろいことが転がっているという、自分が大切にしている感覚を参加者のみなさんと共有することができて嬉しかったです。また、子どもから大人まで多様な人に参加してもらいましたが、ワークショップを通してどんな人でもいきなりアートの才能を発揮してしまうことが分かりました！（Soremomatayoshiさん）

うむいのプロジェクト開催レポート

演劇公演「星いっぱい橋」

脚本：和家若造（わけわかぞう・オレンジマン） 演出：当山彰一
企画：（一社）おきなわ芸術文化の箱

1/27・28
16:00～

那覇市内で活動する4つの劇団から俳優が集まり、地域をテーマにした演劇作品を創作・上演した。架空の「ナファ小学校」の5年生の3人組が、自分たちの住む久茂地地域のことを学ぶために、謎解きをしながらまちをめぐる物語。脚本を担当したのは、久茂地小学校の最後のPTA会長である和家若造さんで、当時制作した「くもじカルタ」をヒントにして執筆した。劇場ではなく、公園の石段（通称・シロヤマ）をステージにするため、かたちが変わって動く舞台美術や、出演者自らが歌って場面が展開するなど、楽しい仕掛け・演出がたくさんみられた。27日の日中には那覇小学校の体育館で5年生限定で上演した後、緑ヶ丘公園では一般向けに上演。子どもたちから大人まで、観客層は多世代に渡り、大人の方からも「地域を知ることができて愛着を持つきっかけになる舞台だった」という感想が寄せられた。



出演：
知花錦（シアターTENカンパニー）
ぐっさん（劇艶おとな団）
渡久地雅斗（演撃戦隊ジャスプレッソ）
加藤明佳（キャラOKINAWA）



Artist's voice

今回は「久茂地川にかかる橋」に着目しました。子どもも大人もそれぞれの地域にある宝物を楽しく見つけてほしいです。生きる力を備えるための「地域の魅力再発見宿題」が出る時代が来るはず。なはーとでの再演も期待します！（和家若造さん）

沖縄の樹々を知る、遊ぶグリーンワークショップ

講師：多田弘、小野豊
企画：カゼモニワ 協力：琉球ラボ

昔も今も、沖縄の風景をかたちづけてきた樹々にふれて学べる、年齢に合わせた3種類のワークショップ。アーティスト・作家として県内外で活躍する多田弘さんがメインの講師となって企画した。

1）落ち葉のプールで遊ぼう！

沖縄本島の各地から集められた山盛りの落ち葉で、ほんもののプールのように泳いだり、ふかふかのベッドのように寝転ぶ子どもたち。「大きい！ちょうちょうみたい」「これって松のお花だって！」とお気に入りの葉っぱを見つけたら、ラミネートをして世界に1枚だけのしおりに。



3～6歳対象
12/6 13:00～14:00、14:30～15:30



2）あの木を探して！まち中探検

まち中を歩いて、街路樹のお話を聞いたら、自分で書いたネームプレートの木につける。「思ったより在来植物は少ないんだなあ」という感想も。

小学生以上対象
12/13 13:00～14:30



3）樹木が喜ぶ剪定講座

公園にあるクチナシや松の樹を、講師のレクチャーを受けながら参加者が一丸となって剪定していく。風と光が奥まで届くようにと、さっぱりした樹木をみながら、「これまでは面倒でバサリ枝を落としていたけど、木が喜ぶ」という方法を意識できるようになった」と参加者のみなさん。



18歳以上対象
1/17 13:00～16:00



Artist's voice

沖縄の樹々に関心を持っていただくことで、在来植物がたくさん使われている建物や路地が増えていきます。沖縄らしい風景を、みんなでつくっていききたいですね！また、庭づくりが建築や工芸などとまざりあってひとつの文化になっているように、今後はジャンルの垣根を超えて、ほかのアーティストとも協働していきたいです。（多田弘さん）

記憶の散歩道 8mm映画と音楽でたどる、 那覇市のあゆみ

出演：真喜屋力、馬頭琴かおり 企画：沖縄アーカイブ研究所

11/21 18:30～20:30

那覇市の昔懐かしい映像（8mm フィルム撮影）が横長の大きなスクリーンに映し出され、集まった多くの人々がそれぞれの思いを持って鑑賞した。映像を構成・編集したのは、映画監督でもある沖縄アーカイブ研究所の真喜屋力さん。3分割した映像の画角に合うようにと、3面マルチスクリーンも竹とシートで手作りした。貴重な8mm映像を目的に来場した人のほかにも、馬頭琴の音に誘われて訪れた人も多く、用意されたキャンプ用チェアに座ったり、家族で持参のピクニックシートなどに寝転んだり、犬の散歩中であつたりと、自由な体勢で楽しんだ。馬頭琴はモンゴルの伝統楽器であるが、「ていんさくぬ花」や「唐船ドーイ」など、映像に合わせて沖縄の民謡をアレンジして演奏する場面もあり、映像をより一層深く心に届けた。

Artist's voice

普段は解説をしながらの上映会を開催しているが、今回は公園に溶け込むことを意識して、新しいかたちで行った。これまで1800本ほどの8mmフィルムのデジタルアーカイブを進めてきた。引き続き8mmフィルムを募集しているし、アーカイブの活用方法を模索していきたい。（真喜屋力さん）

